

琴似発寒川でヤマメの稚魚の放流



5月19日（土曜日）、西区の中心を流れる琴似発寒川とその支流左股川で、ヤマメの稚魚の放流が行われました。

これは、将来を担う子どもたちに、郷土のシンボルである琴似発寒川と、その川にすむ生き物を慈しむ心を育ててもらおうと、地元の町内会などで組織する実行委員会が主催しているもので、今年で23回目の開催です。

昭和・西町連合町内会が担当（今年度は昭和連合町内会が当番）する「西野ふれあい広場」には、天候にも恵まれて地元の親子連れや児童会館の子どもたちなど計

約500人が参加。関係者によるヤマメの生態などの説明を受け、さらに、「自然の大切さや命の大切さ」をテーマとした紙芝居を子どもたちが自ら行い、その後放流を開始しました。

子どもたちはバケツを手に持ち、ヤマメの稚魚が入った水槽と川の間を何度も往復して放流。稚魚に向かって「またねー」「大きくなって帰って来てね」などと声をかける子どもの姿も見られ、送り出した小さな稚魚が懸命に泳いでいく姿に、子どもたちは目を輝かせていました。

この日、放流されたヤマメの稚魚は「西野ふれあい広場」では、14,200匹。生後約半年で、体長約5~6センチほどの稚魚は、川で約1年間過ごし、次の年に川を下って海で成長し、さらに1年後にサクラマスとなって、この琴似発寒川に産卵のため遡上してきます。



みんなの手でまちづくり：「西町・コンサ通り」まちづくり実行委員会



地元を盛り上げるべく、熱い意見が交換されました。

今回の議題は、6月9・10日に開催されたYOSAKOIソーラン祭りの白い恋人パーク会場に、地元小学生や八軒地区の八軒音頭が参加する件や、コンサドーレ札幌の選手による子ども向けサッカー教室など、今年度の事業予定について。北海道新聞が創刊70周年記念行事として今後、毎週日曜版で順次取り上げる「ほっかいどう100の道」に、「西町コンサ通り」が選定されたことで、これを機会にさらなるPRができないかなどについても話し合わせ、商工会議所からは「コンサドーレがJ1で優勝した場合には、コンサ通りで優勝パレードを行うことができれば」などの話もありました。

【まちセン所長のコメント】

- 自然に恵まれた西町地区。稚魚の放流を通じて自然の大切さをあらためて感じました。
- 「西町・コンサ通り」今年度も、実行委員会の皆さんとこの活動を盛り上げていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

YOSAKOI ソーラン祭り：白い恋人パーク会場



👉 踊りを披露する八軒音頭保存会の皆さん

6月9日(土曜日)、YOSAKOI ソーラン祭りの白い恋人パーク会場(西区宮の沢 2条3丁目)で、八軒音頭保存会(林平治(はやし・へいじ)会長)による八軒音頭が披露されました。

今回、初めて YOSAKOI ソーラン祭りのハーフタイムショーで披露されることになったもので、踊りを披露したのは、同会に所属する約 130 人。控え席では、出番が近づき緊張しながらも、次に踊りを控えているチ

ームを応援するなどお互いに交流を楽しんでいました。

開始前は緊張の表情を浮かべていたメンバーも、いざ踊りが始まると日頃の練習の成果を発揮し見事な踊りを披露していました。観客は、初めて見る八軒音頭の踊りを興味深げに鑑賞し、演技が終了すると大きな拍手を送っていました。

また、6月10日(日曜日)には、札幌市立西小学校の6年生が YOSAKOI ソーランの舞を披露しました。

参加したのは6年生全員 138 人によるチーム。4月から練習を始め、5月26日(土曜日)の運動会で踊りを披露した後も、この日のために毎日の朝練習と総合的な学習の時間を使って練習を重ねてきました。

本番が近づくにつれ児童らは緊張の表情を浮かべていましたが、ステージに立ち、大音量の音楽と共に演技が始まると、練習の成果を発揮しようと一心不乱に踊りを披露。4分間の演技が終了すると、会場は大きな拍手に包まれ、満足そうな表情を浮かべていました。観客席に詰め掛けた保護者らは、心配そうに踊りを見つめながらも、一生懸命に踊る子どもたちを応援していました。



👉 西小学校6年生の演舞



👉 踊り終わった出演者へ給水のボランティア

水は見る見るうちに無くなり、受け取った踊り子の皆さんは「冷たくておいしいです!」と、水を一気に飲み干して笑顔で言っていました。

YOSAKOI ソーラン祭りの白い恋人パーク会場では、6月9日(土曜日)と10日(日曜日)の2日間、宮の沢東町内会と宮の沢1条町内会の関係者が、ボランティアスタッフとして、踊りを終えた出演者に水を差し出す「給水係」を務めました。

両日ともあいにくの曇り空でしたが、激しい踊りを披露した踊り子の皆さんは、踊り終わるとステージから退場してすぐの所に設置された給水所に、一目散に駆け寄っていました。スタッフが差し出す紙コップの

【まちセン所長のコメント】

〇八軒音頭保存会の皆さん、八軒地区からありがとうございました。また、西小の熱い演舞、感動しました。
〇給水のボランティアスタッフを務めた皆さんを含め参加された皆様、大変お疲れ様でした。